

# 東京の博物館めぐりー35

## 北区ー1



平野 武宏

今回は北区の博物館めぐりです。区内にある博物館(記念館・資料館・展示館等の総称とします)から寅次郎の好みで選び、独断と偏見の紹介と感想です。詳細を知りたい方は各博物館のホームページをご覧ください。入場料の記載なしは無料です。最寄り駅は代表例と出口です。右上の写真は「飛鳥山碑」です。八代将軍徳川吉宗が飛鳥山を整備して庶民に開放したことを記念して 1737 年(元文 2 年) 王子権現社別当 金輪寺住職により飛鳥山に建立されました。

バーチャルウォーク「日光道中二十一次」の途中経過も報告します。

【北区飛鳥山博物館】 北区王子 1-1-3 最寄り駅 JR 王子駅南口

寅次郎の家から飛鳥山へ行くには都電荒川線での王子駅停留場のひとつ手前の飛鳥山停留場(停留場が正式呼称)から行く方が安く・近いです。飛鳥山は江戸時代に八代将軍徳川吉宗が桜を植え、庶民に開放し、桜の名所としました。1873 年(明治 6 年)日本最初の公園のひとつに指定され「飛鳥山公園」となりました。公園内には北区の「3つの博物館」があります。「北区飛鳥山博物館」(写真下左)は地域の歴史にまつわる郷土資料を展示しています。1階が常設展示室で北区の歴史や文化を 14 のテーマに分けて展示しています。まずは縄文時代の日本最大級の中里貝塚貝層剥ぎ取り標本が目飛び込みます(写真下右)。館内の写真撮影は申し出て登録するとワッペンの許可証が出て胸に貼ります。



北区は縄文・弥生時代から古代人が住み、奈良・平安時代の武蔵国豊島郡(現在の北区、板橋区、荒川区、台東区、文京区、豊島区)としての役所である

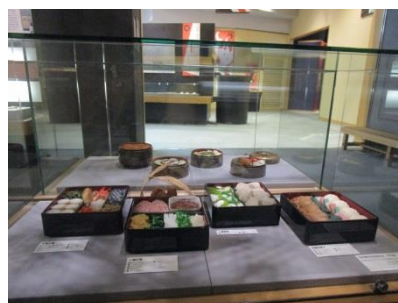
「豊島衙（としまぐんか）」は現在の北区にあったとのこと。

「正倉」（米を納めた倉）を持った豊島衙での古代役人とその仕事が復元され、博物館の入口にありました（写真下左）。



秩父平氏の流れをくむ豊島氏は鎌倉時代には源頼朝と共に武蔵国に勢力を広げましたが、室町時代に太田道灌により滅ぼされました。飛鳥山は江戸時代には将軍の鷹狩りの地、8代将軍吉宗には故郷紀州を思い起こす地として気に入られ、桜の名所で賑わいました。写真下左・右は当時のお花見弁当です。

近代では渋沢栄一により産業や外交の地として脚光を浴びており、北区の歴史が理解できました。渋沢栄一が主人公の2021年のNHK大河ドラマ「青天を衝け」の放送を記念して、NHKの大河ドラマ館が2021年2月20日に博物館内に開館予定とのこと。博物館が賑わうことでしょう。



開館は10時～17時。休館日は毎週月曜日（祝日の場合は開館し、直後の平日に振り替え）、年末年始（12月28日～1月4日）、臨時休館日です。

1階の常設展観覧料は一般300円、65歳以上150円、小・中・高校生100円です。2階・3階のスペースは無料です。

【紙の博物館】 北区王子 1-1-3 最寄駅 JR 王子駅南口

2つ目の博物館は日本最初の洋紙工場の旧王子製紙の収蔵資料を引継、1950年（昭和25年）発祥の地の王子に設立された世界でも有数の「紙専門の総合博物館」です。1998年（平成10年）高速道路敷設で飛鳥山に移転して来ました。2階が出入口（写真右）で2階は「紙と産業」、日本の近代製紙産業の歴史、紙の原料と製造工程などを紹介しています。



産業遺産の機械（写真下左）が並んでいます。3階は「紙の教室」、紙の基本とリサイクルを小学生向けに紹介、週末には「紙すき教室」も体験できます。



4階は「和紙と文化」、紙の誕生と伝播、日本文化を支えた和紙の歴史や企画展スペースなどで、紙の博物館創立70周年記念企画展「特別収蔵展」が2021年2月23日まで開催と予告（訪問時は準備中）。地下1階は近代和紙産業に関する記念碑コーナー（写真上右）と図書室です。和紙・洋紙について多くのことを学びました。

開館は10時～17時（当面は新型コロナウイルス感染予防で16時まで）です。休館日は月曜日（当面は日曜日・月曜日）です。入館料は大人400円、小中高生200円ですが、大人の休日カードや都電荒川線1日乗車券を見せると20%引きの大人320円です。

### 【渋沢史料館】 北区西ヶ原2-16-1 最寄駅 JR 王子駅南口

3つ目の博物館は飛鳥山に本邸を構えた実業家 渋沢栄一の活動を広く紹介する博物館として1982年（昭和57年）11月開館の「渋沢史料館」（写真左）です。



1998年（平成10年）3月に新館がオープン、2020年（令和2年）3月にリニューアルオープンを予定していましたが、新型コロナの影響で延期、11月19日より一般公開（新型コロナ感染予防のため完全予約制、1日2回入れ替え制）されました。寅次郎、11月26日10時30分の予約が取れて訪問しました。

入口にはリニューアルオープン祝いの蘭の花が並んでいました。常設展示は2階「渋沢栄一をたどる」で91年の生涯を年齢ごとの展示ユニットでたどります。写真右の上の数字は年齢です。



渋沢栄一は2021年NHK大河ドラマの主人公、2024年からの新しい1万円札の顔で登場します。年齢の数字の下にはその時の栄一の主な出来事、主な資料が展示しています（写真下左・右）。年齢1年ごとに主な出来事があるのが渋沢栄一の凄さです。



常設展示の別の部屋は「渋沢栄一を知る」で栄一の思いにふれる展示です。縁あって一橋慶喜の知遇を得て家臣となり、1867年（慶応3年）パリ万博で文明に触れ、感銘を受け、帰国してその経験を活かし民間の立場から約500社にのぼる株式会社・銀行の設立、経営指導に尽力し、民間経済外交・社会公共事業に取り組み、近代日本の経済社会に基礎を作った凄いお方です。



開館は10時～17時。当面は事前予約で時間が決まります。休館日は月曜日（祝日の場合は開館）、祝日の代休（祝日後の最も近い火～金曜日の1日）、12月28日～1月4日です。

入館料は大人300円、小・中・高生100円、寅次郎は大人の休日の割引の240円。

渋沢史料館外にある「晩香廬」や「青淵

文庫」も入館券で見学できます。訪問時は一部工事のため、寅さん歩123江戸・東京の祭-49（新しい祭-10）の【こぼれ話】をご参照ください。

【お札と切手の博物館】 北区王子 1-6-1

JR 王子駅中央口

お札や切手の歴史と技術が総合的に学べる博物館（写真右）は駅前の歩道橋を下りて明治通りの右手にある国立印刷局王子工場の隣にあります。



お札や切手を製造している国立印刷局が運営しています。1階常設展示は偽造防止技術（印刷技術・製紙技術）の歴史（写真下左）を細かに紹介しています。



2階常設展示はお札の移り変わりと切手の移り変わりで、寅次郎、こんなに多くの世界のお札と切手を見たのは初めてでした（写真上右）。

開館は9時30分～17時。休館日は月曜日（祝日の場合は翌日）、年末年始、臨時休館日です。

### 【こぼれ話】洋紙発祥之地 北区王子 1-4-1

都電荒川線王子駅前停留場から明治通りを右手に行くとすぐの脇道に碑があり、近づいてみると「洋紙発祥の碑」（写真右）でした。脇の説明板には「日本の洋紙生産は明治6年（1873年）ヨーロッパの先端技術を視察して帰国した渋沢栄一が「抄紙会社」を設立し、ここ王子に製紙工場を作ったことから始まりました。田園の中、煙を吐くレンガづくりの工場は当時の錦絵にも描かれ、東京の名所になりました。



その後、日本の製紙業に大きな役割を果たしましたが、昭和20年（1945年）、戦災によりその歴史を閉じました。この碑は工場創立80周年を記念して昭和28年、その跡地に建てられたものです。日本製紙株式会社」と記載。

### 【バーチャルウォーク途中報告】

八柳修之さん作成の多くのバーチャルウォークコースがFWAホームページ「YR・四季の道」に掲載されています。寅次郎、「中山道六十九次」を踏破し、同じ記録帖にある「日光道中二十一次」に挑戦です。11月25日、日本橋を出立、12月5日、日本橋から5番目の杉戸宿（現在の埼玉県北葛飾郡杉戸町）に到着です。

自宅近くにマイお散歩コースを見つけ、その距離を累計して楽しむバーチャルウォークを始めませんか。FWAのHP「YR・四季の道」には「ひとりで歩くコーナー」があり、コースが紹介されています。マイお散歩や一人歩きでの距離を累計して進む「バーチャルコース」が多く掲載されていますのでご利用ください。歩く際は密閉・密集・密接の3密にならないようご注意ください！

次回は 東京の博物館めぐり-36 です。

平野 寅次郎 拝